

(様式 2)

「秋田大学学生海外短期研修支援事業」実施報告書 (参加学生)

平成 2013 年 9 月 12 日

所属：工学資源学部地球資源学科

学年 4 年次

氏名：米田 直人

研修先大学・機関名等 (国)：PHILEX MINING CORPORATION, フィリピン大学国立地質学研究所
(フィリピン)

在籍身分：

渡航年月日：2013 年 8 月 9 日

帰国年月日：2013 年 8 月 24 日

○研修先での学習内容等

フィリピン, ルソン島, バギオ市から南に約 17km の地点にあるサントトーマスⅡ鉱床では近年の探鉱の結果, 新たに鉱化作用を受けた部分が見ついている. この研修では, 主に新たに見つかった鉱化作用を受けた部分のボーリングコアの記載及びサンプルの採取を行った, また稼行中の坑道に入り観察及びサンプルの採取も行った.

○研修期間の生活面について

午前 7 時にボーリングコアを保管しているコアハウスに向かい, 記載及びサンプルの採取を行い午後 4 時から 5 時頃には作業を終了した. 調査終了後は自分が宿泊しているゲストハウスに戻り, サンプル整理及びデータ整理を行った.

○研修期間全般にわたる感想

研修期間中はほとんどの時間をボーリングコアの記載, サンプル採取に費やしていましたが, それでもほぼ毎日現地の方々に, 夕食へ招待していただきました. 日本人が一人しかいないということで, すごく気を使ってくれていたと思います. なかなかスムーズにコミュニケーションを取ることは難しかったですが, 英語で外国の方と意思を疎通するということの面白みを実感できたことはとても良い経験になりました. また英語でのコミュニケーションをもっと練習しなければならないとも思いました.

(様式 2)

○今後の勉強計画

現地で採集したサンプルから流体包有物の均質化温度及び塩濃度測定，反射顕微鏡による鉱石鉱物の産状，XRD による粘土鉱物の特定などを行い，サントトーマスⅡ鉱床で新たに発見された鉱化作用の種類を示す予定。



ポーリングコア観察の様子（後ろは，2012年7月に秋田大学国際資源学研究教育センターシンポジウムに参加するために秋田大学を訪問した Philex Mining 社の若手地質技師 Avriel Cirineo 氏。）